



医療法人近森会

発行 ● 2007年8月25日

www.chikamori.com
www.近森病院.com

びるっば 9

Vol.254

〒780-8522 高知市大川筋一丁目 1-16 tel.088-822-5231 fax.088-872-3059 発行者 ● 近森正幸 / 事務局 ● 川添昇

全国から 1,200 人をお迎えして、第 11 回日本看護管理学会を開催

メインテーマは

「変化する医療のかたちと 看護の創造」

—流れ・循環・個からの拡がり—

まだまだ厳しい夏の暑さの残る 8月 24、25 日の両日、高知市文化プラザかるぽーとで開かれたこの全国規模の学会の事務局を近森病院が務めた。チーム医療の重要性が盛んにいわれる昨今、高知で行なわれたこの学会の特徴として、大学や病院、看護協会など、それこそ高知県の看護界全体が一つのチームとなって、力を合わせた運営ができたことが挙げられるだろう。



11 年目の看護管理者の学術交流

いきなり堅い話から始まることになるが、この日本看護管理学会の設立は 1996 年 8 月。規約にはその目的を「看護実践のあらゆる場における看護サービスの発展をめざして、看護サービスの組織的提供の仕組みを社会的諸要因

との関係において学術的に追求し、もって人々の健康と QOL の向上に寄与する」と述べている。

早い話が、社会的な諸要因との関係を明らかにしながら、看護管理に携わる者が学術交流をする勉強会のことで、本年で 11 回目を数えることになった。

全国から 1,200 人が参加し、147 題

に及ぶ実践や研究成果が報告された。初日は大会長を務めた梶原和歌看護部長の講演「チーム医療と看護管理者の役割」、京都大学大学院教育学研究科の皆藤章准教授による特別講演「看護管理者が人間の心を理解してリーダーシップを発揮するために」。二日目は、厚労省の中村秀一援護局長による特別講演「これからの福祉と医療」、極めて具体的な対応を迫られる医療提供体制についてのシンポジウム、極めて今日的な課題に特化した啓発ドラマやランチオンセミナー、シンポジウム「創造し立つ看護」など、ぎゅーぎゅー詰めのプログラムが、和やかに時に活発な意見交換を持ちながら提供された。

60 年目のワイン



看護管理学会でシンポジストを務めた

近森 正幸

今年に入ってから、県外での講演や学会も多いし、昨年 4 月の診療報酬改定と DPC 導入、10 月からの電子カルテのスタートなど、休む間もない日々が続いて、土曜、日曜ゆっくりできたのはお盆ぐらいであった。さらに、春野のリハビリセンターの民間委託やオルソリハビリ病院の 10 月へ向けての立ち上げなどもある。

7 月 31 日に 60 回目の誕生日を迎えたが、多忙な仕事もそろそろ整

理して、楽をしたいと考えていた。還暦を祝って誕生会を友人が開いてくれた席で、20 年ほど前から自宅のワインセラーの奥に仕舞い込んでいた、私の生まれた年の 1947 年ボムロールの赤とシャトームートン・ロートシルトをあけることになった。

60 年も経っているのではとも思っていたが、なんとまだ生き生きとした果実味を残しながら、色も深くきれいで、しっかりと熟成しており、森のなかの落ち葉や皮の香りのするすばらしいワインになっていた。

味わたった瞬間、60 年もの歳月を経て、なお若さを保ちながら熟成を重ねているワインに感動を覚えた。

1947 年生まれのワインに倣って、これからはあまり無理はできないが、若いころの情熱を忘れずに、人間的にももっと成長していきたいと希っている。

理事長・ちかもり まさゆき



講演中の
梶原大会長

いまなぜ求められる看護の創造

そもそもメインテーマを敢えて「看護の創造」としたのか経過は次の次頁。

※次頁へ

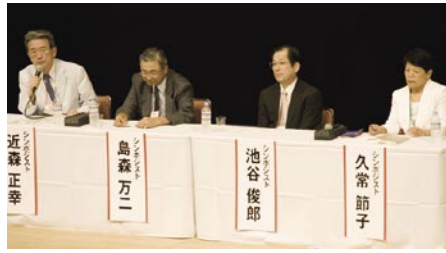
※1面から続きます。

急性期医療の主流が従来の出来高払いからDPC(診断群分類別の包括評価)へ変わり、慢性期でも療養病床の削減と4年後の介護療養病床の廃止に向けた選択が迫られている。介護難民の呼称を流布させないシステムづくりが求められるなかで看護はどう立ち上がるのか。亜急性期、回復期においても看護の役割の増大が期待され、「変化する医療のかたち」に対して、看護は「創造を超える創造」でこそ、その役割が発揮できるといえる。



両日あわせて12会場で行なわれたポスターセッションの様子

シンポジウムではDPC、地域医療連携、パス、7対1看護などについて熱く語られた



学会写真全て高知女子大・井上正隆氏撮影
智の獲得とエネルギー補給

梶原大会長は今学会の狙いを「学術的な智の獲得と、看護管理者も癒されて明日への意欲を新たにすること」だったと語る。大会を終え各方面の参加者からは、「どんな風にエネルギーを補給され、何が役に立ち何を今後の課題として考え直したいか、など一連の流れとして見るなかで整理が出来た」。「学会というよりも美味しく楽しく身心を活性化するお祭りのようだった」など、嬉しい感想が寄せられている。

● 9月の歳時記 ●

秋桜 (キク科のコスモス属)

文 CCU 池澤友朗

コスモスは元々メキシコ原産の花で、日本へ渡来したのは明治時代だそうです。さだまさしや山口百恵は「秋桜」をととても悲しく歌っていますが、コスモスの花言葉は乙女の純潔、乙女の心得、美麗、真心などと結構さわやかなものです。世の中には「チョコレートコスモス」というチョコの香りのするコスモスがあるらしいですよ。今年の秋は家族や恋人と一緒にコスモス畑へ行ってみられてはどうですか? (笑)



チョコレートコスモスは色もチョコ色

心臓血管外科開設

7周年 記念映画会

TOHO シネマズ高知の一番大きいスクリーン7(346席)には満員のお客さんが詰めかけ、アメリカ自然史博物館の夜を描いた映画『ナイトミュージアム』が上映された。

心臓血管外科の入江博之部長から7周年の感謝のご挨拶を申し上げ、この日、7月31日がちょうど還暦の誕生日に当たった近森正幸理事長には深紅のバラの花束(右)を贈るセレモニーも併せて催された。



ハッスル研修医・第4回

佐賀北ナインには負けられません

この原稿を書く前にとりあえず広辞苑を調べてみました。“ハッスル:元氣よくやること。張り切ってやること。”この言葉を見て、まず思いついたのは、先日行われた夏の甲子園。毎年この季節には、球児たちの放つ輝きに眼が眩みそうになります。今年の夏を独占した佐賀北ナイン。独禁法違反は免れないです。

一方、ピカピカの社会人1年生である自分。佐賀北ナインに負けじと輝きたいところですが……輝くどころか、先日のキャンプイベントで赤黒く変色してしまうのが精一杯。

とはいえ、少しずつ仕事にも慣れ、その中で楽しみも増えてきているように

研修医
町田 崇博



思います。内科から外科へのローテーションもあり、若干戸惑ったりもしましたが、早いうちに内科・外科の両方を経験できたことで、視野も多少広がったような気がします。

学生時代、セカンドから外野、サードへコンバートされるうちに野球がさらに楽しくなったことを思い出したりします(関係ない??)。焦点がボケてきたかも知れませんが、これからもっと仕事を楽しく、ハッスルしていきたいと思っています。打倒佐賀北!!

聴診器

近森病院3階東病棟看護部長
川久保 和子

書に捧げる愛の唄

※8月16日~28日まで、高知市内のGALLERY CAFE odd eyeで、**吉川宏男回顧展**
— 芳子に捧げる写真展 —

患者さんは87歳女性。とても陽気な方で看護師と唄を歌ったり、でもとてもさびしがりで、よく「おとーさん!おとーさん!寂しいんだってばー!」と訴えられていた。

患者さんのところには毎日ご主人様が満面の笑みで訪れた。自転車に乗ってフルーツ入り特製ヨーグルトを持って現れ、やさしく食べさせる光景はこちらが赤面するほど微笑ましかった。長い闘病の甲斐なく旅立たれたが、ご主人様の心のうちを察

するにはあまりにも悲しすぎた。

しばらくして長い長いお手紙を頂戴した。妻を想う短歌も添えられてあった。至らなかった私たちにもたくさんお礼の言葉をいただいた。半年が過ぎたころ、ご主人様があの満面の笑みで病棟を訪れてくれた。お元気そうで嬉しかった。息子さんが写真展を企画してくれたとのこと、テーマはもちろん「妻にささげる写真展」……。ぜひみんなで見に行こうと思う。愛あふれるご家族である。



病棟スタッフと会場に駆けつけました(写真は川久保看護部長とこの話の主役・吉川宏男さん)

オーストラリアの写真展で賞金40万円(出品当時)を獲得した作品「すべり台」。これも会場で鑑賞できる



近森病院・日本医療機能評価機構による受審は、10年前の初回から三度目

受審の収穫を皆で

管理部長 川添 昇



7月23日午後より25日午前まで3日間にわたり、日本医療機能評価機構による病院機能評価を近森病院が受審した。今回で三度目の受審となり、初回は10年前。大規模病院版では全国で3番目の認定であった。

近森病院は運用調査受審を含めて4回、近森リハビリテーション病院も運用調査受審も含めて3回、近森病院第二分院は1回と近森会全体で合計8回の審査を受けたことになる。

手馴れたものだと思われがちであるが、評価項目は毎回変化し、レベルも向上している。担当するスタッフもそれぞれ違ってきているので、全員が新鮮な思いで受審準備をしてくれたと思う。

評価項目は610に及んでおり、全ての項目についての文書、記録を整備し、想定される質問にも答えられるよう皆で智恵を出し合った。



個別の質問に答える久保田総看護師長

日常業務の反省、見直しを通じてより質の高いものへと改善できたことがたくさんあった。受審して認定を受けることが目的ではあるが、結果はどうかであれ、受審に向けてのプロセスを職員、仲間と共有し団結力を養えたことが何よりも大きな収穫であった。

病院の経営管理にとっても、医療安全や感染管理などのリスクマネジメントについても、また職員一人一人が自分達の与えられた使命を確認できたという点でも、たいへん有意義であったと思う。

受審へ向け職員が一丸となって取り組んだ熱意が、患者さんにとっても必

ずプラスに働くことになることを確信している。



こんな風に始まった受審風景

お知らせ

第8回近森病院 公開県民講座

日時 平成19年10月13日(土)

14:00-16:00

場所 高知県民文化ホール
グリーンホール

講演テーマ

「愛する人が、いま倒れたら」ER篇

- ①救急車を呼ぶとき、呼ばないとき
香美市消防署 救急係長 宗石康生
- ②あなたのその手が命を救う
地域医療連携室看護師長 和田道子
- 救急部 (ER) 主任 村田美和
- ③救急車内、救急部ではこうします。
救急部 (ER) 部長 根岸正敏
- ④トリアージって何？
救急部 (ER) 科長 井原則之

入場無料、申込不要

院外エッセイ

激務を喜びとして！

高知市町内会連合会 会長 野崎 英明

昭和4年7月30日、高知市出身。中央保健所普及課長、高知短期大学教務課長などを経て退職。以後、本文にあるような数々の役割を受けつつ、高知市町内会連合会の会長は平成11年6月から。他に高知市各種委員や高知県原水協代表委員など(長くなるので以下略…)



40年あまりの公務員生活を終え、封印していた趣味の舟釣りや囲碁を楽しみながら、長い間税金で生活させていただいたお礼に少しでもお返しをと、地元の自治会長を引き受けて早くも20年。

ボランティアだからと軽く考えていたのが大間違い。常襲浸水地帯のため大雨や台風のたびごとに、住民の代表として県や市との交渉、町内外のミゾ掃除、衛生害虫駆除のための消毒活動、災害発生に備えての防災組織の立ち上げや防災訓練の実施、子ども会事業や公民館を拠点とした教養と趣味の講座の開催等々(あまりに多いので活動内容は以下略)、合計93の町内会や自治会で結成する旭地区町内会連合会の会長職、そして前会長の突然の辞任で飛び込んできた高知市町内会連合会会長代行、続いて会長と、とんでもない第二の人生になってきた!!

ほとんど毎日、連合会事務局に詰めるかたわら、午前も午後も夜も会議で「ヤセ馬に荷が勝ちすぎ」とはまさにこのこと。「日曜が休めた現役

のころが……」とボヤイテいたが、ついにダウン。

近森病院に緊急入院、「胸部急性大動脈解離、腹部大動脈瘤」で手術、幸い浜重副院長と入江心臓血管外科部長のお二人の名医に恵まれ、7時間半に及ぶ大手術も無輸血で完了。

術後翌日から理学療法士さんの指導で行なう歩行訓練に驚かされ、予行練習を繰り返す看護師さんの注射の痛みに、「生きている」という喜びを実感したり…。医療スタッフの皆さんの手厚い看護に見守られ、昔なら開腹から1カ月は絶対安静といわれていたところだが、10日ほどで無事退院。改めて現代医療の進歩と技術の向上の恩恵を実感し、感謝感謝の毎日。

もう少し働けとの天の声に励まされ職場に復帰。往復タクシー通勤と少々贅沢だが、それは体力の回復とともに自転車通勤に切り替えることとし、任務に励んでいるこの頃。

さて趣味の舟釣りはいつになることやら、実現できる日の早からんことを期待しながら、今日も激務を…。

第一期初期臨床研修医

古谷敏昭、磯山友子、西本陽央、瀬良 誠、小林純子、三木俊史、杉山淳一、久保山智世、田中孝明

による

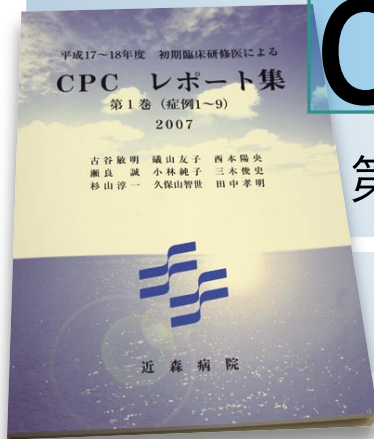
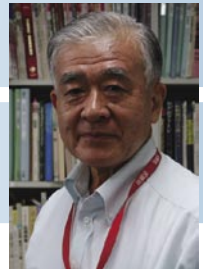
CPCレポート集

(症例1~9)

第一巻 2007 発刊のお知らせ

院内CPCにもっとご参加を

病理部長 円山 英昭



CPCは臨床病理検討会

本年3月に平成17~18年、2年間の初期臨床研修を修了し、本院にとって、第一期“卒業生”となった古谷敏昭（※レポート集の表紙では間違っ
て敏明となっています）、磯山友子、西本陽央、瀬良 誠、小林純子、三木俊史、杉山淳一、久保山智世、田中孝明（※レポート記載順）の9名の若手医師が、研修期間中の必修項目の一つであるCPCレポート【CPCはclinico-pathological conference（臨床病理検討会）の頭字語。お亡くなりになられた患者さんの診療に関わったスタッフを中心に、関係者が一堂に会し、ご生前の臨床事項を病理解剖結果と合わせ、再度学習するための検討会】をそれぞれ作成し、それらを研修管理委員会と病理部が協力して編集し、上記の形で発行することができました。9名の皆さんに慰労の言葉と、レポートの作成や発行までの作業にご指導、ご協力いただいた各部門のスタッフには心からお礼申し上げたいと思います。

医局会CPCから院内CPCへ

ご存知のように、本院では昨年6月から、これまでの“医局会CPC”を、多方面におけるpatient benefitの医療の実践と本院の理念の一つであるチーム医療の観点から、医療に直接あるいは間接的に関わるスタッフのすべてが参加し、お亡くなりになられた患者さんから、それぞれ、専門職の立場でさらに病態や診療、介護について学ばせていただく“院内CPC”へと、CPCの実施方法を改めました。

CPCレポート作成の意義

その第1回CPCにおいて、“主治医”



役を担当したのが古谷敏昭先生でした。病態は難解でしたが、臨床指導医の先生方から指導や助言をいただきながら、十分に考察して、CPC当日には“主治医”として、適切に説明し、質疑応答も十分でした。

CPC後、指導医の指導を再度受けながら彼がまとめあげたレポート【構成:1. 臨床経過及び検査所見、2. 臨床的に主要な問題点と考察、3. 臨床経過（フローチャート）、4. 病理解剖所見、5. 臨床経過と病理所見のまとめ、6. CPCレポート作成を通しての感想】を第1症例として、以後、毎月のCPC毎にレポートが作成され、今回のCPCレポート集には9名個々のレポート、全9症例が収録されています。

各レポートには上述のような必須項目が同様に含まれていますが、記載様式や表現形式、病態の解析や考察の方法は各人様々であり、いずれも大変興味深く、充実した内容で、当時のやり取りが思い出されますし、準備・整理の違いも窺うことができます。

チーム医療が貫徹できる病院として、病理部のできることをコツコツと

ところで、新方式のCPC参加者は第1回が58名、以後、86、82名と増え、活発な討議と学習が行われま

毎月第4木曜日の17時15分から管理棟5階会議室で開かれるCPC(臨床病理検討会)。写真は第15回CPC風景。研修医による臨床事項の発表後、病理解剖の結果を加え、参加者は質疑応答などにより、病態を学習する。なお、後ろの方には医事課の市川主任の姿も見える

したが、CPCレポートを全員が年度内に無理無く作成出来るように、第4回から6回まで2症例ずつ行なったため、所要時間が毎回3時間近くにもなり、以後、参加者が45~55名程度までに減少し、1例ずつのCPCに戻した第7回以降、現在(15回)にいたるまで参加者数は以前の状態に回復していません。このことは結果的にはCPCレポート作成作業と関連した負の副産物かもしれません。

自主・自律の継承、発展を

しかし、CPCレポート作成を通しての感想から、彼らが懸命に研修し、若手医師として、2年間で精神的にも大きく成長した事実を読み取ることが出来ます。彼ら9名の今後の一層の活躍を祈ると同時に、現在、第二巻2008のレポート作成準備を始めている後輩たちには第一期生が築いた自主・自律の新しい伝統を継承、発展させてほしいと願っています。

レポート集入手ご希望の方へ

※本院研修管理委員会(内線6611武政)まで、ご連絡ください!

次回(2007年度、第6回)のCPCは9月27日(木)17時15分~
“肺炎で入院後、2ヵ月後に抗酸菌陽性となり、急激な経過で死亡された陳旧性脳梗塞・廃用症候群の一例”

第40回 地域医療講演会「最近の放射線治療の進歩」

—乳がん・前立腺がん治療および新しい増感放射線療法—

高知発の奇跡のような治療法に…

高知大学医学部放射線医学教室 小川泰弘教授をお迎えして
2007年7月13日、高新文化ホールで

小川泰弘教授

当日は接近する台風4号の影響で暴風雨が強まり開催が危ぶまれる中、20歳代の若い女性から80歳代の熟年男性まで150名を越す医療関係者および一般市民が参加くださり、熱気に包まれた講演会となりました。

まず最初に、**前立腺がんでは切らずに直す新しい放射線治療への期待**とともにPSAによる健診の重要性を話され、次いで先生のライフワークでもある乳ガン治療では乳房温存療法の素晴らしさと乳ガンが見つかって慌てることなく、専門医を受診することの重要性を強調されました。先生はガンが見つかるということはすでに何年間も身体



放射線科部長 森田 賢

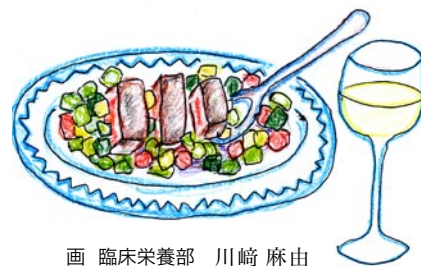
に持っていたということなのだから、見つかったからといってバタバタしてもあまり意味はない、じっくり取り組もう！と言われるのです。

圧巻は新しい増感放射線療法に関する講演で、**現代医療では治すことの極めて難しいとされていた難治性ガンを、先生独自に考案された全く新しい方法で魔法のように治してしまう奇跡のような治療法**であり、今後広く世界中に広がる可能性を秘めた、高知発の夢のあるお話に、参加者一同新しい歴史の目撃者のような感動を覚えた一夜となりました。

続 管理部長のコンテンツ
こだわり料理 21

川添 昇

さっぱりステーキ



画 臨床栄養部 川崎 麻由

最近でこそステーキはよく食べられるようになったが、昔、家族で嬉しいことがあった時などに「よし、今日はテキにするぞ」と父親が宣言し、子ども達がワァーと歓声を上げるといった具合でめったに食べられなかったように思う。

太古の人類が食糧確保を狩猟に頼っていた頃、何日もかけてやっと獲物を持ち帰った男達はまず肉をあぶって食べ、残りの肉や内臓などは、野菜といっしょにシチューや煮込みとして女・子どもが食べつないでいたという話もある。ステーキはまさしくハレの食べ物であった。このステーキを焼くのは男こそふさわしいと言ってしまえば世のフェミニスト達のそしりを受けるだろうか。

今回のステーキは野菜だくさんのつけ合わせにしてみた。肉は理事長おすすめの大橋通り横田精肉店より買い出し。ショーケースには置いておらず、「赤身のステーキ用を」と頼むと奥の大きな冷蔵庫から出してきて切ってくれる。

〈材料と作り方〉

- ①厚切りのステーキ肉を常温にして塩コショウをする。
- ②タマネギ・アスパラガス・キュウリ・トマト（種などは除いて）を約8mm角に切り揃え、ボールに入れ塩コショウし、レモン汁をたっぷりとかきしょうゆホンの少々をさっと混ぜて置いておく。
- ③①を好みの焼き加減でフライパンから取り出しそのまま常温で放置。そうすることで熱が芯まで伝わり赤いgoodな状況になる。
- ④②を皿の上にこんもり平らに盛り③を切り分けてその上に載せる。

〈食べる〉

赤身といってもマルやイチボといった部分なのでうっすらサシが入っておりすこぶる美味。アツアツでなくても十分イケル。ポン酢を付けてもいいし、ワサビとしょうゆでもなおおいしい。さっぱり味の野菜をスプーンですくいながら食べる。赤ワインもいいが、スパークリングワインで口をすすぎながら食すとこれまた結構である。夏バテ気味の身体を肉で労（いたわ）る。理に適っているではないか。

看護部 キラリと光る看護 その31

切り替えの速さとプロ魂

1993年に誕生した老人保健施設いごっばちは、在宅総合ケアセンター近森の閉鎖と共にこの7月末に運営を終了しました。

高齢障害者を家庭復帰につなぐことと、安心して在宅生活を継続していただくためにデイケアとショートステイ機能を最大限生かすことを目的に運営していました。

そのため入所日数が10日前後と短く出入りの多い忙しい施設でしたが、職員の素晴らしいチームワークと熱意、ケア水準の高さで地域の信頼を得、その基盤をつくっていました。

要介護5だった私の母も亡くなる直前まで人間らしく口から食べ、毎食後きちんと口腔ケアをしていただき、イオン高知へ車椅子散歩などに

も連れて行っていただきました。

フットワーク軽く明るいケアワーカー（介護福祉士）の彼らはいま、10月オープンのおルソリハビリテーション開院までの時を、分散して急性期の近森病院で実務についています。

「病院と老健では介護の視点が異なるので戸惑っている」と言いつつも、「病気の回復を早め普通の生活をしていただく展望をもって介護に当たっています」と、いごっばちへの愛惜から切り替える努力をしています。

急性期病院で看護補助としてではなく「介護福祉士」としての活躍の場・存在の意義を管理側として実感している日々です。

248号（本年3月）以来、お久しぶりです！♥



大きな小児集中治療室 を持つ施設の臨床研究

麻酔科 岩崎 衣津

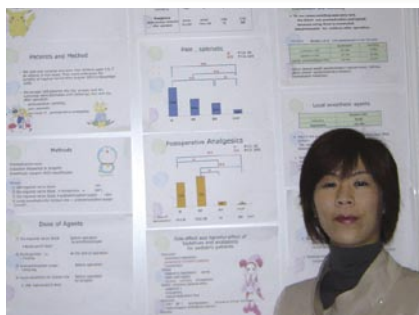
▼学会会場の発表ポスター前で

6月末にスイスのジュネーブで開催された第5回世界小児集中治療学術大会に参加しました。前の勤務先での演題発表に関わりましたが、その中で、1歳以下の頭蓋内出血の稀な原因として、頭蓋内出血を発症して初めて先天性胆道閉鎖症が発見された症例を提示しました。

国際学会ということでは、やはり英語力が重要ですが、今回も、自分の英語力の低さが身にしみ、積極的に討論に参加できないもどかしさを感じた学会でした。

ただ、小児集中治療領域における鎮静のセッションでは、麻酔領域と重複するためか理解しやすく、以前参加した国際学会の時よりは英語力がアップしたのかな?と感じました。

小児集中治療領域は、新生児集中治療・成人集中治療領域と比較すると、



医療先進国である日本においても、まだまだ十分とはいえない分野で、大きな小児集中治療室を持っている施設の臨床研究は、非常に興味深いものでした。

ジュネーブには、パリからTGV(日本の新幹線のようなもの)で行きました。その時、私の後部座席の人が、聞き取り易い英語で話をしているな……、英語圏の人じゃないから私でも話が解るのだらうな……と思って列車を降りるときにその人をみたら、なんと世界的に有名な指揮者で、現在はウイーン国立歌劇場の音楽監督を務める小澤征爾さんでした。旅の初めの偶然に大喜びし、一緒に写真をとっていただきました。ジュネーブは、レマン湖というたいへん大きな湖に面したフランス国境の国際都市で、遠くにはアルプスが見えるたいへん美しい街でした。チャンスがあったら、またゆっくり、訪れたいです。



▲ホテルの窓から眺めたジュネーブの風景。左手にはレマン湖にかかるモンブラン橋

医療安全シリーズ⑨

医療安全担当看護師長

青木 千利



水平展開

看護界の重鎮である井部俊子氏が訳されている『ナースのルール 347』のなかで、173番目に「あなたが部屋を出ようとした時に患者が言うことは、大変重要なことである」とある。

最も話をしたい(訴えたい)ことなのに、言うか言うまいか、どんなタイミングで言えば良いのか、機嫌を損なわないためにはどうしたら良いのか、患者さんやご家族がそんな思いで療養生活を送っていることを肝に銘じなければならない。

私達は何をするためにそこに居るのか。風が起るほどのスピードで歩き、忙しさをアピールしてはいないか。難しい言葉を並べ、驕りと自惚れの醜い表情をしてはいないか。

偽りの表示で、信頼と多くの人の生活を脅かしている時のニュースは、全く別世界のことで無い。事例を水平展開させ多くを学びとらなければ、信頼を得る努力をしているとは言えないのであろう。



アジアビューティーな夜 ノンオイル中国料理誕生♥

臨床栄養部 今村 早織

中町オーナーシェフ▼

▶後列左端はメニュー発案者の入江部長、続いて金杉管理栄養士。前列左から高井管理栄養士と弘田管理栄養士

新中国料理店「彩華」に新メニュー“アジアビューティーコース”が誕生しました。「いかにもヘルシーな感じの中華があれば!」と、このコースを発案した入江博之心臓血管外科部長と管理栄養士でエネルギー計算を兼ねた食事会を行いました。

中華料理は調理過程や風味付けなどに油を使い高カロリーなメニューが多い印象ですが、このコースはヘルシー・ノンオイル料理が特徴。選択可能なデザートを含みコースのカロリー



筆者の今村管理栄養士▲

は850kcal程度、コンビニのお弁当1個分と変わらないカロリーで、野菜もたっぷり使用しており、ビタミンや食物繊維の摂取も可能。全ての料理は香りよく、素材が活かされた丁寧な味付けに感激しました。



- ④ ①クコの実の白ワイン②オードブル三種盛り合わせ ③はちきん地鶏の竹筒さっぱり蒸しスープ ④生ホタテ貝車えびの湯引き黒酢ゼリー添え ⑤冬瓜とカニつめ肉のトロトロ煮⑥季節野菜のセイロ蒸し中国茶葉ソース ⑦白身魚の湯引き金柑ソースあんかけ⑧身体にやさしい薬膳粥薬味添え ⑨季節のおすすめデザート(選択可) ⑩特選季節のおすすめ茶



典型的な

型
不言実行人間

どちらかといえば口数は少ない方だろうし、積極的にどんどん前に出てグイグイ引っ張るタイプには見えない。しかし、伊東看護師長の統率力や判断力など看護管理者としてあるいは看護者としての「人間力」の確かさや大きさは、リハ病院の田村キミ子総看護師長がその人物評で強調するように、少し近づけばすぐ解る。

看護をめぐる熱い想いが溢れているのに、一見クール、話をするよりも聞く方が得意な風になぜ見えるのだろうか。伊東さんは腕を組んだり肩をほぐしたりしつつウーッと悩んでポツリと説明してくれた。「三つ上の姉と三つ下の弟に挟まれた真ん中でしたから…。どうやら育った環境が成長してからの在り方にも影響を及ぼしているようだが、ペラペラ所感を述べて立てるのはご自身の美学に反する行為になるらしいし、不言実行を是とするのだ。

長崎では栗原正紀先生を中心とした実践チームで主に脳神経外科を担当してきた。栗原先生の近森リハ病院着任時に、看護部門の長崎と高知のつなぎ役のような形で近森リハに就職した。「急性期病院にいたから、患者さんのその後を確認したかった。在宅へどうやってスムーズにつなげられるか学びたかっ

た」のだという。

そしていま、近森リハでの役割を一定終え、長崎リハ病院の開設を控え近森リハ病院を退職する日が迫ってきた。こういう順風満帆な看護師人生だが、若いスタッフに看護の何たるかをどう伝えるか、患者さんの70年80年の人生の或る期間を看護者として関わる際、どうすれば道が拓けるか悩みは尽きないようだ。



急性期病院の面白さは長崎で十分経験してきたが、「チームとして、回復期病棟で地道なケアを続けることで患者さんの毎日に光明を見いだす面白さ」を、若い看護者に伝えたいという。それが看護という仕事の真髄に思えるのだろう。

高知で働いてきた5年半の間に両親との別れを経験した。遠距離介護だったわけだが、「移動中は必ず寝る」ことで、結果的には悔いを残すことなくクリアできた。大げさでも何でもなく、見た目通り、寝ても覚めても仕事のことが頭から離れないタイプのようなのだが、ガス抜きは大好きなビールでバッチリ！だし、休みには小説を読んで静かに過ごすことが多いという。

高校時代、身内に医療職がいたことがきっかけで医療方面を志したという「平凡な動機」ではあったが、いまこれほどに面白い仕事は他には見つからないだろうと、当時の進路選択を密かに喜んでいるようでもある。それをアピールするでもなく、「仕事、面白いですよー。回復期、いいですよ」と、ちょっぴり照れながらボソッとつぶやく伊東さん、天職に出会い、それを納得して続ける自信と喜びが滲み出ている風なのだ。

「生意気ですが」と前置きしつつ、「看護がよければ人は集まります。長崎でもガンバリマスきー」。力強く本当に頼りになる、今後へ向けた抱負である。

究極の癒しの島で、極上のバカンス…



臨床検査部 横川 昇子

去年、沖縄の阿嘉島に行った時の写真です。那覇からフェリーで約1時間半。信号も無く、警察署も無い小さな島です。昼間はの綺麗な海でのんびりと過ごし、夕食は民宿で宿泊客みんなで話しながら食べ、夜は島で唯一のBarで呑みました。今年もこの島に行く予定だったのですが、沖縄は台風直撃、那覇のホテルで呑みながら荒れる海を眺めていました。この写真を見ながら、来年こそは！と誓いを新たにしています。



充電完璧!の顔です

| | |
|-------------|---------|
| 近森会 外来患者数 | 18,807人 |
| 近森会新入院患者数 | 826人 |
| 近森会 退院患者数 | 837人 |
| 地域医療支援病院紹介率 | 82.67% |
| 近森病院平均在院日数 | 15.01日 |
| 近森会 平均在院日数 | 23.26日 |
| 近森病院救急車搬入件数 | 465件 |
| うち入院件数 | 231件 |
| 手術件数 | 355件 |
| うち手術室実施 | 217件 |
| 全身麻酔件数 | 118件 |

7月の診療数

企画情報室より

シリーズ●クリニック探訪26 高知検診クリニック

高知検診クリニック
 (社)日本病院会・健康保険組合連合会指定
 政府管掌健康保険生活習慣病予防健診取扱

▶院長・医学博士 坪崎英治(えいじ)
 S14年4月3日生まれ 高知市出身
 趣味は読書(分野を問わず)と、旅行



人間ドック及び希望検査

- 脳ドック
- 生活習慣病予防健診
- 定期健康診断
- 出向健康診断(外診)
- 特殊健康診断
- THP検査

▼スタッフは総勢で116名。
 健診のお世話は私たち エスコート係
 にお任せください♡

高知検診クリニックでは、私たち全てが健やかで心豊かな生活を送れる元気社会をつくるために、病気の早期発見、早期治療という「二次予防」に加えて、健康を増進させ、病気になるにくい身体となる「一次予防」が極めて重要と考えています。健診施設として判断結果の科学的根拠に基づいた、個々の生活習慣改善の手助けとなるよう、全力で努めてまいります。



予約課 088-883-9711 個人・団体とも

※健診日はホームページでご確認をお願いします。

<http://www.kenshin.or.jp/> (8:45~16:45)

所在地●高知市知寄町二丁目4-36 Tel.088-883-9711(代)



図書室便り (管理棟図書室 7月受入分)

・最新整形外科学大系 21 骨系統疾患、代謝性骨疾患 / 中村利孝 (他編集)
 ・アキレス腱断裂診療ガイドライン 文献アブストラクト CD-ROM 付 / 日本整形外科学会診療ガイドライン委員会、アキレス腱断裂ガイドライン策定委員会 (編集) ・上腕骨外側上顆炎診療ガイドライン 文献アブストラクト CD-ROM 付 / 日本整形外科学会診療ガイドライン委員会、上腕骨外側上顆炎ガイドライン策定委員会 (編集) ・執刀医のためのサージカルテクニック 脊椎 / 徳橋泰明 (編集) ・リセット! タバコ無用のパラダイス / 磯村毅・笑って禁煙できる本 / 禁煙研究家ワイネフ・抗菌薬使用のガイドライン / 日本感染症学会、日本化学療法学会 (編集) ・臨床・病理 食道癌取り扱い規約 2007年4月 (第10版) / 日本食道学会 (編集) ・2007年版診療報酬Q&A / 杉本恵申・論文を正しく読み書かためのやさしい統計学 / 中村好一 (編集) ・リハビリテーション医学用語集 第7版 / 日本リハビリテーション医学会 (編集) ・WMA 医の倫理マニュアル / 樋口範雄 (監訳) 《寄贈本》・よくわかる医療連携Q&A / 武藤正樹 (監修)
 《別冊・増刊号》・日本医師会雑誌 生涯教育シリーズ 72 メタボリックシンドローム up to date / 岩本安彦 (他監修) ・別冊・医学のあゆみ 酸化ストレスと心血管疾患—分子機構の解明から治療への応用まで / 筒井裕之 (編集) ・老年精神医学雑誌 vol.18 増刊号—1 老年精神医学の現在・未来 / 長谷川和夫 (他著)
 《ビデオ・DVD》・VIDEO JOURNAL of Japan Neurosurgery Vol.15 No.3 / 日本脳神経外科学

編集室通信

▼職員旅行の季節がやってきました。海外の大人気は依然続いています。わずか3年前と比べてもユーロ高、オイル高騰による航空運賃の上昇、欧州航空会社での団体枠削減など条件面ではむしろ不利なことが多いのが事実です。年に一度の職員の楽しみですので、多くの方が気軽に楽しめる旅行になればと最近つくづく思います。(裕)

※(念のため)7月の診療数は7面です。